

全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第51巻 第3号

特集

新型コロナウイルス
障害者の人権・
発達保障

Vol.51
No.3

を読む会

日時 1月17日(水) 19時～21時

zoom ミーティングによる開催



【話題提供】

新型コロナウイルス感染症と障害者の人権・発達保障 **木全和巳さん** (日本福祉大学)

コロナ禍で浮かび上がる学校教育の課題 **三木裕和さん** (立命館大学)

担当編集委員： 司会・進行 **河合隆平さん** コメント **越野和之さん**

■参加者の意見交流■

- 参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。
- 読む会参加申し込みフォーム(右)から注文できます。

参加申込



問い合わせ 全障研事務局 info@nginet.or.jp

<https://form.run/@shoumonken51-3>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、人類史的危機といえるが、とりわけ障害者をはじめ社会的弱者とされる人びとの命を危機にさらした。それは、この国の医療・福祉政策の脆弱さに起因するものであり、障害者、その人たちをケアする人、それを支援する人たちの存在を軽んじ、その切実な声に耳を傾けようとしないう「弱くもろい社会」が招いた困難であり惨事である。

2023 年 5 月、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが 2 類相当から 5 類感染症へと引き下げられ、感染対策が大幅に緩和されたが、障害者やその家族は今なお命と健康への不安を感じながら生活を送っており、支援の現場でも緊張や不安が続いている。しかし、対策や政策に対する反省や検証もないまま政府によって「アフター・コロナ」が強調されることで、障害者の困難や問題はますます置き去りにされていないか。

本誌もその都度、コロナ禍の障害者問題をめぐる動向や議論を取り上げてきたが、あらためて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって障害者がいかなる困難に直面したのか、そしてそれらが障害者の人権・発達保障に突きつけた課題を議論すべく本特集を企画した。

本全論文では、関連論考からコロナ・パンデミックの実態と明るみになった課題を整理し、ある社会福祉法人のコロナ禍の経験を聴き取りながら、ケア労働の重要性をおさえたうえで、ソーシャルワークの議論のうえに「民主主義」と「人権」という価値に立脚した「応答責任」を果たしていく「自治」の積み重ねを呼びかける。

三木論文は、感染拡大下で排除的空気や強権的統制が呼び込まれるなかで学校の全国一斉臨時休業が要請されたとしたうえで、一斉休校中の子どもや家族、教職員の実態や学校再開の現状から、子どもたちに「人間的共感関係」に支えられた生存を保障する学校教育に光を当てる。

口分田論文は、重症心身障害者施設におけるクラスターの実態と緊迫した対応の実態を振り返り、制限された環境にあっても入所者一人ひとりに応じた日常のケアの重要性を再確認し、病棟における家族面会の取り組みにも触

れながら、「人と人が当たり前につながりながら、生きていくという当たり前の権利」の保障を訴える。

コロナ禍がもたらす影響を明らかにするには、長期にわたる検証が必要である。そのためにも、障害者が直面し今なお継続する困難を具体的に記録しておかなければならない。後半では、福祉事業所の生産活動・利用者工賃への影響（松本）、一斉休業中の特別支援学校の対応（阪倉）、コロナ対策の最前線である保健所の現状（小松）を報告いただいた。手記として、保育園園長であり障害者の親としての経験（遠藤）、障害当事者としての感染と闘病の経験（高橋）を寄せていただいた。

本特集をもとに、いまだ明らかにされていないコロナ禍の障害者の困難や権利侵害の実態、実践現場の苦悩や経験を掘り起こし、すべての人の命と健康を守り、人権・発達保障の公的基盤と社会的条件を厚くするための課題について議論が展開されることを期待する。（かわいりゅうへい 東京都立大学）

■この号のもくじ■

特集にあたって 河合隆平 1

新型コロナウイルス感染症と障害者の人権・発達保障 ●木全和巳 2

コロナ禍で浮かび上がる学校教育の課題 ●三木裕和 10

コロナ禍における重症心身障害者施設での感染対策・医療 ●口分田政夫 18
報 告

コロナは障害福祉事業所の「仕事」にどのような影響を与えたのか ●松本亮久 26

コロナ禍の中での学校の動き、家庭への支援 ●阪倉季子 32

コロナ禍における大阪府の保健所の現状と課題 ●小松康則 38

手記「保育園園長」で“障害者の親”の私を支えてくれた人たち ●遠藤明子 44

手記 脳性麻痺の私たち夫婦の闘病経験から ●高橋弘生 47

連載 実践に学ぶ

特別支援学校寄宿舎の実践 子どもたちとの出会いと学び 能勢ゆかり 50

【能勢実践に学ぶ】山崎由可里 56

作業所の実践 言葉で表せないモヤモヤをわかってほしい 永井達也 58

【永井実践に学ぶ】赤木和重 64

連載 ワイドアングル

「非正規春闘」とその歴史的背景 栗原耕平 66

動 向

NHK「みんなの選挙」にみる障害のある人と投票 杉田 淳 72



●読む会へのおさそい●

コロナ パンデミックは、その前後で急激な社会の変化を生みました。そのダメージは、弱いところや傷んでいるところに、より大きなほころびや裂け目としてあらわれました。また、「公共」「文化」「仕事」などの意味を問い、人と人の関係性やふれあい、いのちの重さを問いました。

わたしたちは、それぞれの生活の場や職場で、全障研の会員や読者の集まりなどでも、出くわした困難や問題を語りあってきました。また、聞き取りや調査も取り組まれました。本特集を契機に、足もとから、学校では？ 作業所では？ 保育所や放課後デイでは？ 家庭では？ と、一人ひとりの事実や思いをこもこも語り、事実を積み重ねて問題をはっきりと描き出しましょう。そのことは研究活動を厚みあるゆたかなものにするでしょう。

ウイルスはなくなったわけではなく、問題は終わっていません。また、くりかえし顕在化することでしょう。語り、記録し、話し合い、意味づける取り組みは続きます。読む会にご参加ください。



読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは

全障研出版部

新宿区西早稲田 2-15-10 西早稲田関口ビル 4 階
電話 (03) 5285-2601・FAX (03) 5285-2603 www.nginet.or.jp

